



[千年の都を育む水・土・緑]

歴 2-13 (R03)

岩井家は先祖代々、京都市街の北限、北区雲ヶ畑で林業を営み、祖父の代に大徳寺に近い、旧大宮通と建勲北通に面する当地へ移りました。

明治5年築造の主屋は、木造ツシ2階建ての町家を転借したもので、西側の土間部分と東側の住居部分に分かれており、住居側は、棧瓦葺き切妻平入りのツシ二階建てで、真壁の土壁塗りです。

かつて野菜の卸売り市場であった、奥行の広い土間部分を、応接室、木材展示室、材木置場としています。間口いっぱいに架かる、小屋組みを支える4本の上屋梁を支持する、大断面のマツの牛梁で構成された架構は、野趣に溢れ、農家建築を想起させます。

越屋根がのる大屋根と、北側の一部が落棟となっているのは、構造的、機能的な必要性に加え、装飾的な側面も窺えます。

落棟には、かつて野菜市場であった名残として、「ヤ」という文字が記された鬼瓦がのっています。

長年、玄武やすらい祭や今宮祭の際には、祭列の背景を飾るなど、地域にとっても大切な景観をつくっていましたが、残念ながら、令和4年11月、火災により焼失しました。



土間部分 (小屋組)



通りから

〒603-8214 京都市北区紫野雲林院町13・14合地

ホームページ <https://www.kyoto-mokuzaijuku.org/organizations/31.html>